

夜間保育

平成29年

1月23日 発行
2016-③

発行責任 全国夜間保育園連盟 会長 天久 薫
編集責任 大阪市東淀川区豊新3-25-5 豊新聖愛園
全国夜間保育園広報担当 草場加奈子
電話 06-6325-2405 Eメール info@zenyahoren.jp

あけましておめでとうございます。全国夜間保育園連盟会員の皆様には、健やかに新年を迎えられたこと、心からお慶び申し上げます。

昨年度東京新宿区に於いて開催されました、第27回全国夜間経験交流研修会は、北海道から沖縄まで全国の仲間210余名が一同に会し、保育制度、保育内容、様々な経験を文字通り交流する会となりました。これもひとえに東京の先生方の細やかなご配慮の賜物と感謝の念にたえません。ありがとうございました。

また、「保育士指針改定における要望書」や、機関誌への情報提供を頂きましたこと、熊本・大地震の際での義援金の募金など、会員皆様からの力添えに感謝致し、改めてお礼申し上げます。本年も変わらぬご協力

よろしくお願い致します。

さて、保育を取り巻く状況がよりあわただしくなっています。昨年の12月「保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ」に関し承認を受け次のような概要で公表されました。

1. 保育所保育指針の改訂の方向性
- (1) 乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の充実
- (2) 保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけ
- (3) 子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえた健康及び安全の記

新年のごあいさつ

全国夜間保育園連盟副会長 酒井 義秀

踏襲)

- (2) 多様な園児への配慮（一人一人の生活の流れを考えて創意工夫）
- (3) 2歳児から3歳児への移行の配慮（3歳までの育ちを理解・受容し、家庭との連携の基で、発達の連続性に配慮）
4. その他の課題
- (1) 小規模保育、家庭的保育等への対応
- (2) 周知に向けた取り組み
- (3) 保育の質の向上に向けて

社会保障審議会(保育専門委員会)より以上のように示されています。

さらには「社会福祉法人制度改革」「保育所保育指針の改定」「幼稚園教育要領の改定」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定」と保育の世界では大きな変革期であります。夜間保育園連盟ではこれまで、乳児保育（0歳の乳児から2歳児保育）の重要性を踏まえ個別への関わりや職員間のチームワークを大切に、社会福祉施設として地域支援や社会的養護の必要な支援も担ってきました。これまで長年積み重ねてきた、認可夜間保育所としての実績と根柢に

基づく確かな保育を継続し続けなければなりません。研修会にあり、開催要綱に記載されているようにシンポジウムで現在の夜間保育の課題を提示・整理していただき、分科会でそれらの課題を中心に議論を重ね、10年後の夜間保育を展望していきましょう。

来る平成29年2月11日、12日の二日間、福岡県福岡市博多区「キヤナルシティ内グラント・ハイアット・ホテル」に於いて、第28回全国夜間保育園経験交流研修会を開催いたします。

「山笠があるけん博多ったい。」と言われる天久会長の地元博多。歓楽街で有名な中洲が会場のすぐ近くにあります。昨年12月全国33件のお祭りがユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録された博多祇園山笠行事でも有名なお祭りがある町です。夏まつりなので今の時期、山笠を見る事は出来ませんが、福岡県三大祭のひとつである「博多祇園山笠」に負けないように天久会長と私ども「男集」そして「ごりよんさん」の心意気でお迎えいたすべく、準備を整えております。

みなさまとお会いできますこと、楽しみにしております。大いに語り合い、交流を深め、素晴らしい夜間保育を未来に繋いでいきましょう。

シンポジウムのテーマは『10年後の夜間保育を展望する』

《シンポジウムのご案内》

「夜間保育は子どもの発達に悪い影響を与えるのか？」

1981（昭和56）年の夜間保育制度創設以来、「夜間保育は、児童福祉の目的である『児童の健全育成』の観点から、望ましくないと、つぶやきにも似て囁かれてきたこの言葉は、以来35年の長きにわたり、夜間保育に携わる保育者の心を悩ませてきた。

2016（平成27）年にスタートした子ども・子育て支援制度の中での夜間保育の位置づけは、曖昧模糊としたまま、なんとなしの落ち着きをみせている。夜間保育に携わる若い保育者にとって、自分たちの保育の依拠するところが本研修会にしかない、というのはなほだ心細いことである。が、この研修会があることで、夜間保育従事者としてのアイデンティティーとプライドを維持しているといえるだろう。このシンポジウムで10年後、夜間に保育を必要と

している親子に、そして働く人たちの希望の光を見つけましょう。

●コーディネーター及び

シンポジストの紹介

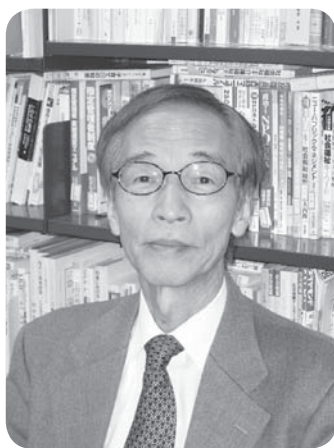
*コーディネーター・山縣文治氏
関西大学人間健康学部教授。

1954年広島県生まれ、大阪市立大学卒業後、同大学上を経て、2003年大阪大学生活科学研究科教授。主たる活動として、日本社会福祉学会理事、日本子ども社会学会理事他。全国夜間保育連盟には、設立以前から関わられ、連盟設立以来アドバイザーとして夜間保育に関する調査研究を実施、現在は当連盟顧問として関わっていただいている。



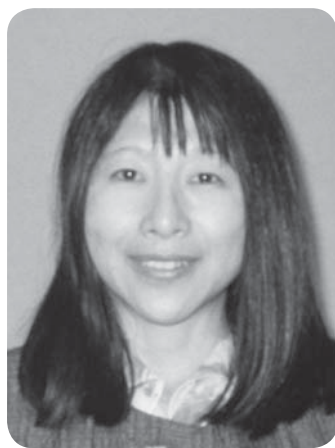
*シンポジスト・櫻井慶一氏
文教大学人間科学部 同大学院人間科学研究科教授。

早稲田大学大学院修了の後、日本社会事業学校社会福祉専修科修了・社会福祉士。1981年新潟県内の短期大学で保育士・幼稚園教諭養成に関わり、スウェーデンのムツレ野外保育を紹介・普及活動をしている。社会活動歴として、TBSのベビーホテル問題を含め、継続して夜間保育に携わる。2014年、夜間保育園連盟発刊の『夜間保育と子どもたち★30年のあゆみ』の編集を含め、監修に全面的に関わられた。現在、当連盟顧問。



*シンポジスト・安梅勅江氏
筑波大学大学院 教授

東京大学医学部保健学科卒業の後、国立身体障害者リハビリテーション研究所を経て、2001年浜松医科大学教授。1998年以来、当連盟と協力し、長時間の保育に携わる実践の経年調査を実施、『夜間保育の子どもへの影響及び課題に関する研究』を発表。『保育パワーアップ研究会』を主宰。夜間保育の質の向上を提唱されている。現在、当連盟顧問。



*シンポジスト・天久薫
全国夜間保育園連盟会長・社会福祉法人四季の会理事長。

連盟設立時から、夜間保育園園長



として関わられ、夜間に保育を必要としている親子に寄り添われている。九州大学法学部卒業と言う福祉分野と一味違うキャリアで、夜間と言う厳しい環境に置かれた親子を夜間保育所があることで少しでも望ましい状態に帰ることが出来るよう奮闘されている。



《分科会のご案内》

今回の経験交流研修会には、4つの分科会をおきました。

*第1分科会

【新制度と10年後の夜間保育】

理事長・園長・運営責任者の方々を対象に、ご自分の法人の運営について、教育保育福祉分野の在り方について語り合います。

発題は、当連盟会長天久薫氏（前
述）で助言をシンポジウムのコー

ディネーターを務めていただいた、山縣文治先生（前
述）にお願
いしています。

*第2分科会

【明日の保育をよくしようという工夫
している点について】

主に新任（4年未満）の職員を
対象にした部会です。

発題テーマは、「1年間保育を
実践してみても楽しいと思つたこ
と・難しいと思つた事」「明日の
保育をよくするために心がけてい
ること」を、参加者自身が日々の
保育の中で感じた事やその時の対
処法など、実践に即してその手立
てをグループで話しあい討議しま
す。

助言は、西南学院大学人間科学部
教授・門田理世先生です。

★門田 理世（かどたりよ）先生
プロフィール・イリノイ大学で

M・S及びPh・D取得（いずれ
もアメリカの学位で修士・編集部
注）西南学院大学人間科学部講師・
准教授を経て現職。

社会的活動として、文部科学省参
与・福岡県・福岡市子ども子育て
会議委員部会長他があります。

特に、就学前保育の分野での造詣
が深く、実践に即したわかりやす
いアドバイスは定評があります。



*第3分科会

【研究と保育実践をつなぐ】

主に経験職員・主任職員を対象
にした部会です。

発題は特に定めず、当日参加者の
話し合いの中で、グループのテー
マを定め、討議の中で深めていき
ます。ここ数年継続して同じテー
マで深めてきましたが、毎年新し
い課題が見つかっています。

助言は、安梅勅江先生（前
述）

*第4分科会

【調理員は、保育にどのように関
わるか】

主に、調理師・栄養士・食育担
当保育士を対象にした部会です。

発題テーマは、調理と保育とわか
れがちな保育所の中で、子どもの
育ちを見通し、連携を深めるため
の取り組みについて、レシビなど
も併せて発題していただきます。

グループに分かれ、調理と保育
の望ましい関わりについて検証し
ていきます。

助言は、北九州市管理栄養士の大
村美智子先生です。

★大村美智子（おおむらみちこ）
先生プロフィール・山口県立大学
家政学部食物栄養学科管理栄養士
専攻卒業。管理栄養士

その後、北九州市役所入職。民政
局・保健所、市民病院、教育委員
会を経て、平成28年、保健福祉局
健康医療部 食育・栄養改善担当
課長・子ども家庭局子ども家庭部
母子栄養指導担当課長兼務



事務局報告

年も明け、いよいよ今年度も残りわずかとなりました。連盟としては総会以降、下記の活動を行いました。

10月19日に東京八重洲ホールにて役員会を開催致しました。国への陳情と研修会について、検討いたしました。国への陳情については、各園の実情や要望等をふまえ、精査した内容の検討を行いました。また、研修会については、盛会だった東京大会の次が九州での開催ということで、日程や場所の検討を行い、更に内容について検討いたしました。

11月1日に厚生労働省へ陳情に行きました。陳情の内容に沿って夜間保育の実情を訴え要望してきました。国としても夜間保育の重要性を理解して頂いており、実態

の把握のための根拠の取りまとめなどの助言を頂きました。

11月7日に熊本へ行き、連盟会員園である熊本夜間保育園(熊本市)と八代ひかり夜間保育園(八代市)とへ、連盟会員の皆様からお預かりした熊本大分地震の義援金をお渡しに行ってきました。震災から半年経ち、震災の記憶が薄れがちですが、市内では未だに封鎖された道路があったりブルーシートに覆われた屋根が見られたりと、被害の爪痕が地震の甚大さを物語っていました。会員園の2か園は何とか自力で保育を再開されていましたが、園舎にはひびが入ったりした箇所が残っていたりとまだまだ大変な中ということで、皆様からの御志に感謝されておりました。

12月12日に福岡にて大会実行委

員会を開催致しました。全体の流れの確認と各種担当割りなどを行い、大会に向けて具体的な準備を行っていきます。今回は確保していただいた宿泊ホテルが満室となり、皆様にはご迷惑をおかけしましたが、多くの皆様を福岡の地でお迎えることができることを嬉しく存じます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

現在ほまさに大会準備の真っ只中です。前事務局の先生方にご指導頂きながら、大会開催地園、研修部、広報部の皆様と一緒に、より良い大会とすべく奮闘しております。全国の仲間が集うこの大会を皆様にとって意義あるものにして、きるよう頑張っておりますので、宜しくお願い致します。

編集後記

新たな年を迎え、今年は「どんな年になるのかな」というより「どんな年にしたいか」を考えていきます。

これだけ多様化社会で働く人たちがいて待機児もまだまだ解消されない中、夜間保育所のニーズが減っているところもあるという事は何に問題があるのでしょうか。

少なくとも私たちは、夜遅くまで私たちの生活を支えて働く人たちの子育てを支援しています。また、子育てに不安を抱え夜間までの支援を必要としている人たちのセーフティネットとしての役割も大きいです。夜間保育所の受け皿で子育て不安から子どもを成長を希望に変え卒園していく人もいます。その人たちから今の日本社会は、子育てしにくい縮図の中で、「あの親」の問題ではなく、「この日本」の問題であることを教えられます。

全国津々浦々、地域ニーズは違っても夜間保育所が誕生してきた経緯は皆同じではないでしょうか。その確認の意味でも経験交流研修会で1つになれたらいいなあ。

草場 加奈子